

令和2年度

京都市立醍醐中学校

学校だより

第5号

令和2年8月1日 文責 林



夏休みが始まる

8月1日（土）から夏休みが始まります。今年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために休校措置が長く続いたことで、3週間の夏休みとなりいつもより短縮した夏休みです。

今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症の感染対策を進めるために「新しい生活様式」を取り入れた夏休みにはなりますが、体調管理をしっかりして有意義に過ごしてください。そして、夏休みが終わって成長した生徒の皆さんに会えることを楽しみにしています。

夏休みに向けて、私からは2つのことをお願いします。一つ目は、自由に使える時間を何かにチャレンジすることに使ってほしいということです。夏休みは、普段とは違って自由に使える時間が増えます。漫然と過ぎゆく時間に身をまかせているのではもったいないです。ぜひチャレンジしてください。何かにチャレンジすることで、自分自身を高めることができますし、今までとはちがう自分を発見できるでしょう。こんなこともできるんだと自分自身の良さがわかり、自信もついてきます。自分の殻を破るためにもチャレンジしてください。そして、夏休みが終わって登校するときに成長した姿を見せてください。二つ目は、規則正しい生活を送り体調管理に努めてほしいということです。つまり、「早寝・早起き・朝ごはん」の実践です。早起きして、朝の涼しい時間帯に学習などやるべき事を済ませると暑くなる昼間は自由に使えるようになります。また、朝ごはんをしっかり食べて、暑さに負けない身体をつくるためにも身体を動かして汗を流すことも忘れないでください。暑さに慣れることも必要だと言われます。熱中症予防のために水分補給を忘れずをお願いします。

読書のすゝめ

先日、自宅の本棚の整理をしていると宮脇俊三さん著の「時刻表 2万キロ」という本が見つかりました。この本は、国鉄（現在のJR）全線（当時約2万キロ）に完乗する紀行文です。私がこの本を読んだのは大学生の頃でした。そして、非常に感動したのを覚えています。特に、北海道を列車で旅をする部分に感銘を受けました。読んでいただけではもの足りなくなり、夏休みを使って北海道を訪れました。当時は、まだ青函トンネルが開通していませんでしたので青函連絡船にゆられて北海道の第一歩を踏みしめました。その後、北海道周遊券を手に、夜行列車も使って「時刻表 2万キロ」に書かれている路線に乗りました。中には、「幸福駅」や「愛国駅」で有名になった広尾線にも乗りました。北海道の大自然を列車に乗りながら満喫したことが思い出されます。しかし、その時に乗った路線は多くが廃線になり残念です。

私は、読書をきっかけで旅に出ることにしたのですが、実際に旅に出なくても読書で様々なことが体験できます。時空を超えたり、自分の価値観を揺さぶられたり、物語の中の主人公に感情移入したりなどです。生徒の皆さんも時間を見つけて読書をしてください。そして感動が得られることを願っています。中学生の時に読んだ本は、大人になっても意外と覚えているものです。

「時刻表 2万キロ」以外にも重松清さん著「ビタミンF」、浅田次郎さん著「鉄道屋（ポッポヤ）」、鷺田清一さん著「京都の微熱」などをよく覚えています。

